

2024/3/14 (資料)

(資料 1)

「誤った」ライフスタイルという考え方をやめたいからです。シャルマンやモザクは誤った信念 mistaken belief だとか基本的誤り basic mistakes だとかいうような言い方をしますが、その言い方は、まるで治療者が「正しい」ライフスタイルを知っているかのような感じじゃないですか。治療者は聖人でも裁判官でもありませんから、クライアントを裁く権利はありません。

野田俊作「ライフスタイル論をめぐる考察」2009

(資料 2) p433-434 Organ Inferiority のQA

Q: Couldn't a person aggravate an ulcer?

人は、潰瘍を悪化させることがありますか？

A: He does not do it on purpose. Unfortunately, the ulcer people, especially the duodenal ulcer people, are those who cannot make decisions. And as life is a continuity of making decisions, you cannot even protect them from making decisions. So anytime they have to make a decision, they pinch the mucus membrane of their duodenum. It is a rocking chair, yes/no, yes/no. It is interesting that the people with duodenal ulcers are different from the stomach ulcer people. The stomach ulcer people are mostly what we call the executive ulcer type. They are people who are terrifically ambitious, who are in very responsible positions and who have to make decisions. Afterwards they get scared about whether or not this decision was really correct.

わざとやっているわけではありません。不幸なことに、潰瘍の患者さん、特に十二指腸潰瘍の患者さんは、決断ができない人たちです。人生は決断することの連続で、あなたは彼らを決断から防ぐことはできません。決断をしないとイケない時に、十二指腸の粘液膜をつねっているのです。はい/いいえ はい/いいえ の揺り椅子のようなものです。興味深いことに、十二指腸潰瘍の患者さんと胃潰瘍の患者さんは違います。胃潰瘍の患者さんは、所謂 executive 潰瘍タイプです。この人たちはもの凄く野心家で、非常に責任のある地位にあり、決断をしなければなりません。彼らは、この決断がほんとうに正しかったのかどうか、後で怖くなるのです。

The duodenal ulcer people can produce duodenal ulcers under the screen of the fluoroscope. You can get someone to produce a duodenal ulcer by making him emotional and indecisive. As we are forced to make decisions constantly, someone who has a duodenal ulcer (as long as he does not change and become willing to make a decision) is always in danger of getting a new ulcer. This is a very tragic

situation when millions of times a day you have to make a decision. If you never dare to make one because you are always afraid you will make a wrong decision, then you are in trouble if you have an inferiority of the duodenum. This has been seen experimentally many times.

十二指腸潰瘍の患者さんは、透視鏡下でも潰瘍を作ることができます。感情的ではつきりしない状況にすることで、十二指腸潰瘍を発生させることができます。私たちは常に決断することを強いられますので、十二指腸潰瘍を持っている人は(その人が変わらず、すすんで決断するようにならない限り)いつも新しい潰瘍ができる危険があります。あなたが1日に何百万回も決断しなければならないとしたら、非常に悲劇的な状況です。もし、間違った決断をしないかいつも恐れているために決断をしようとしなければ、十二指腸潰瘍の器官劣等性があれば、トラブルに陥るでしょう。これは実験的に何度も見られることです。

Q: I have migraine headaches which come on when I'm alone. What causes them?  
私は一人でいる時偏頭痛になります。何が原因でしょうか。

A: We have to realize that quite a number of so-called diseases, quite a number of pains that people have, have a very deep rooted meaning that people are not aware of. I am quite convinced that one could probably find out, not in class, what your migraine headaches mean. Migraine headaches are one of the most usual (I do not say this is true of you) symptoms that we find in very repressed, depressed, anxious, angry, frustrated, disappointed people. Again, I am not talking about you. I do not know anything about you. I want all the others to know also that I do not know anything about this lady. In many cases, however, we have found that migraine headaches in grown-ups are equivalent to temper tantrums in children. Grown-ups mostly do not throw temper tantrums openly, because it seems inappropriate. Some do, which is quite interesting at times to see. They have found new ways of expressing the same thing that the child expresses with a temper tantrum, expressed with a migraine headache or with a depression.

私たちは、多数のいわゆる疾病、痛みが、自分で気づかない深い根があると自覚しなければなりません。あなたの偏頭痛が意味するものを、この授業ではなくて、見つけ出すことができるだろうと私は確信しています。偏頭痛は、非常に抑圧されたり、憂鬱、不安、怒り、挫折、失望などをもつ人々の、もっともありふれた症状(あなたにとって本当だと言っているのではありません)の一つです。繰り返します。あなたのことを言っているのではありません。私はあなたについて何も知りません。他のみなさんにも、私がこの女性について何も知らないことを知ってもらいたいです。しかし、多くの症例で、大人の偏頭痛は子どもの癇癢と等しいことを私たちは見つけました。大人はほとんど大っぴらに癇癢をおこすことはしません。適切でないと思

われるからです。何人かの人は癩癩をおこしますし、時々それを見るのは興味深いことです。子どもがかんしゃくを起こすことで表現するのと同じものを、偏頭痛や憂鬱で表現するという、新しい方法を見つけたのです。

(資料3)

人生の課題はすべてそれが解決されるためには、協力する能力を必要とするのである。あらゆる課題は、人間社会の枠組みの中で、人間の幸福を促進する仕方で克服されなければならない。人生の意味は貢献である、と理解する人だけが、勇気と成功の好機を持って、困難に対処することができる。(上 p32)

ある点で、人間は実際に地球上でもっとも弱い生き物である。人間は、ライオンやゴリラの力を持っていない。そして、多くの動物が一人で生活の困難と直面するためには、われわれよりも適している。結びつくことで、弱さを補償している動物もある—群れをなして集まる—、しかし、人間は自然界の他のどこで見出すことができるよりも様々で根本的な協力が必要である。(上 p71)

われわれが現代の文化において享受しているすべての利点は、貢献してきた人の努力によって可能にされたのである。もしも人が協力的でなかったら、他者に関心を持たなかったら、全体に貢献してこなかったら、人の人生は不毛であり、跡形もなく地球上から消え失せてしまっていただろう。貢献した人の仕事だけが残っている。(下 p104)

自分の課題に直面するとは、人生の三つの課題を協力的な仕方で解決するという責任を持つことを意味する。(下 p139)

(「人生の意味の心理学」 岸見一郎訳)

(資料4)

私的感覚に協力的なのと競合的なのがある。(略)では、どういうのが協力的、どういうのが競合的か、って言うと、相手と自分とを比べて、相手は間違っているとか、相手は悪いとか、相手のやっていることは醜いとか、相手のやっていることは正しくないとか、そういうふうを考えている、逆に言うと、私は正しいとか、私のやっていることは美しいとか、良いとか、思っているのが競合的なやり方。ある言い方で言えば、人を裁いているやり方。逆に、相手はいい、自分はダメね、あの人は素晴らしい、私は醜いとか、そんなふうにも思っているのも競合的なやり方。自分と相手との間に優劣をつける。優劣っていうのは、だいたい真・善・美。(略)ランク付けをしてですね、どっちが上でどっちが下かを決めたい。だいたい多くの場合は向こうが下でこっちが上なんですけど、ある場合には向こうが上でこっちが下。それは一緒なんです。そうやって、順位を決めたいなあ、って思うのが競合的なやり方。順位なんか問題じゃないん

だ。誰が上で誰が下かとか、誰が正しくて誰が間違ってるかじゃなくて、どうやって力を合わせて問題を解決するか。(事例略)これは協力的なやり方。我々の文化は競合的なんです。文化自体が、何が正しくて何が間違っているかを決めたいんですよ。それは今のいわゆる西洋近代文明というものが、決めたいんです。西洋近代文明って何かってというと、正義の文明。(略)

いつも人を裁かない。自分自身も裁かないで、一緒に力を合わせて問題を解決するという方向に向かって考えないといけない。そうするとですね、仮想的目標は、あんまり仮想的じゃなくなるんです。実現可能性が上がります。

アドラー心理学は、(略)他人のやり方を批判してそれを変えようと思わないんです。相手も含めた共同体が、自分と相手とを含めたものがよりベターな生活ができるために、私に何ができるかな、っていうのを問いかけていきたいんですよ。そうやって考えていくと、自然に協力的になりますし、ただ協力的になるだけじゃなくて、今よりもよい共同体のあり方、よい社会、よい未来を作っていくことになるじゃないですか。人類の暮らしているのは、どうやって作られるかっていうと、今我々が何をするかによって変わってくる。

野田俊作ライブラリ/協力と横の関係 2012年5月